

第16回全日本ユース(U-16)水球選手権大会－桃太郎カップ－【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2023/12/26】

男子準々決勝1

京都府選抜

9

4	－	5
0	－	2
1	－	5
4	－	1

13 大垣市水球クラブ

PSO

御崎 智徳

審判:

塚本 龍一

この試合のプレー集計

京都府選抜	22	SH数	26	大垣市水球クラブ
	2	速攻数	6	
	9	ST・SB	16	
	7	SH・P誘発アシスト	9	
	28%	GK阻止率	31%	
	5	EX反則数	5	

ST・SB: ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

準々決勝第1試合は、前回チャンピオンの京都と進境著しい大垣という興味あるカードとなった。予選リーグではややもたついた京都であったが、徐々に試合にも慣れ、本来の動きを取り戻してきている。対する大垣は中盤からのディフェンスで相手に好機を作らせず、そうしたディフェンスからの攻め上がりでの安定感で勝ち上がってきた。京都の攻撃力vs大垣ディフェンスという好対照で、ハイレベルな試合展開が予想される。

【1P】

京都のパスミスで大垣が突き、センター位置から⑥加藤がバックシュートを決めて大垣が先制。続けて、退水を誘発して①野村が2点目をマーク。対する京都は、大垣のボール処理ミスから⑤植村が決めて1点を返す。しかし、京都のシュートをGK①高橋がセーブ、そこから大垣の攻撃でペナルティを誘発して大垣が追加点。京都も④渡邊がセンターで決め、さらに速攻で⑧宇津木が決めて同点に。大垣はセンターで退水を誘発して④小野がゲット。第1ピリオドから激しい点取り合戦となった。その後、京都⑧宇津木が、大垣も④小野が加点し、京都4－5大垣で第1ピリオド終了。

【2P】

京都は大垣選手が居残っている状況で戻る前にシュートを打ってブロックされ、そこから大垣①野村→⑥加藤につながれて失点。シュートの前にカバーが必要だったが、誰も戻ろうとしなかったのが痛かった。このプレーから京都のリズムが変わり、大垣⑦川合が右サイドの遠い位置からシュートを決められ、3点差に。京都の攻撃ではセットが広がり過ぎていて、中央へのドライブへの思い切りもなく、外周での時間空費が目立つようになった。京都4－7大垣と、このピリオドでは京都が無得点に終わり、3点差で後半に。

【3P】

大垣がオーバータイムで放棄した攻撃権、京都が素早く前線にボールを運べずにロングパス。このボールを大垣GK①高橋が果敢に飛び出して奪取。そこから⑥加藤が抜け出して得点。このプレー、オーバータイムで無理なシュートをせず、相手ボールにしても時間空費を狙った大垣ディフェンスが京都のミス誘発した形となった。攻撃権放棄の判断としては他チームも参考になるプレーだ。その後も、大垣ペースが続き、京都のオーバータイムから中央に泳ぎ込んだ①野村が、さらに退水誘発時にタイムアウトで勝負に出て⑦川合が決め、続けて①野村がペナルティで加点。京都の右展開時の攻撃に対して大垣②池田のしつこいまでのディフェンスが十分機能する展開で完全な大垣ペース。京都はピリオド終了間近に退水を誘発して⑨小島が決めて、大垣の連続得点を阻止するのがやっとで第3ピリオド終了(京都5－12大垣)。

【4P】

点を取るしかない京都はセンターボールからの攻撃で④渡邊がセンターで決めるが、攻撃意識が強くなりすぎて、オーバータイム寸前の大垣⑧臼井の右サイドドライブに対応できず、簡単に失点。この時の京都ベンチ指示は「前へ」だったが、京都の左サイドが先に出る必要はなかったわけで、こうした連携にも課題を残した。京都はこのピリオドこそ攻めオンリーで追撃したが、試合中盤での失点が響き、京都9－13大垣で、大垣が準決勝に進出。

大垣ディフェンスは相手ボールへのプレッシャーによる攻撃時間空費につながっていて、攻撃側の選択肢を狭める意味で非常に有効。どこまでこうしたディフェンスが通用するか楽しみである。